

令和 7 年度春期 情報処理安全確保支援士試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2025,7,3

4 月 20 日 (日) に行われた令和 7 年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。IPA から発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、情報処理安全確保支援士試験の分析コメントをお知らせします。

■情報処理安全確保支援士試験 (S C)

〔令和 7 年度春期 情報処理安全確保支援士試験 統計情報〕

応募者	22,645 人
受験者	16,526 人
合格者	3,134 人
合格率	19.0 %

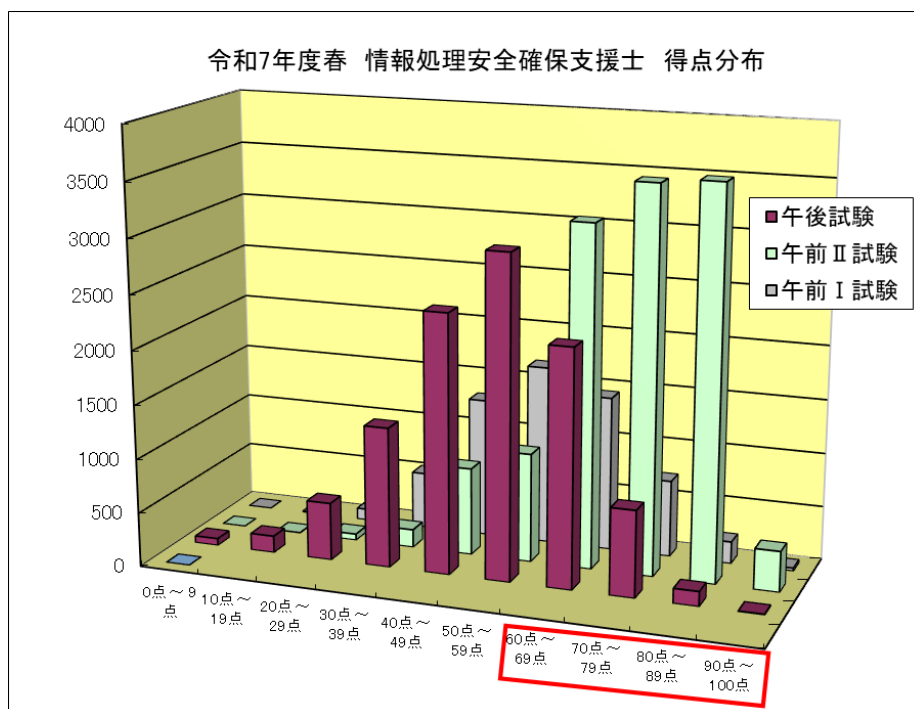
平成 29 年春期から始まった情報処理安全確保支援士試験 (旧情報セキュリティスペシャリスト試験) は、令和 5 年度秋期試験から午後 I と午後 II 試験が一つの午後試験に統合されました。今回の合格率は 19.0% で前回の 15.1% から約 4% 上がりましたが、前回試験が最も低い結果で、今回は平均的な合格率といえます。

今回は午前 I 試験が難しく突破率が低かったのですが、午前 I 試験免除の人も多く、午前 II 試験が平易で、午後試験も苦手意識をもつ人が多いセキュアプログラミングの出題が少なかったことから、合格率が上がったと思われます。発表された得点分布の分析とグラフを示します。

〔令和 7 年度春期 情報処理安全確保支援士試験 得点分布とグラフ〕

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	0	64	
10 点 ~ 19 点	11	3	156	
20 点 ~ 29 点	105	57	536	
30 点 ~ 39 点	526	167	1,300	
40 点 ~ 49 点	1,297	815	2,395	
50 点 ~ 59 点	1,665	1,013	2,971	
60 点 ~ 69 点	1,437	3,155	2,191	
70 点 ~ 79 点	713	3,538	800	
80 点 ~ 89 点	204	3,582	137	
90 点 ~ 100 点	27	376	6	
計	5,985	12,706	10,556	3,134
対前試験比率		212.3%	83.1%	29.7%
午前 I 免除者 (概数)	10,541	63.8%		

合格者数	3,134	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	2,381	39.8%	-753
午前 II 60 点以上合計	10,651	83.8%	7,517
午後 60 点以上合計	3,134	29.7%	0



午前Ⅰ試験免除対象の人は増える傾向がありますが、得点分布の結果を分析してみると、今回情報処理安全確保支援士の午前Ⅰ試験の免除者は概算で 10,541 人（63.8%）いて、受験者の 6 割以上の方が午前Ⅱからの受験となっています。この午前Ⅰ試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 2,381 人（受験者の 39.8%）で、前回の 71.5%と比べて非常に低い結果でした。これまでは約半数の人が 60 点以上でしたので、今回の午前Ⅰ試験はかなり難しかったといえます。

なお、50 点～59 点の“あと一步”の人が 1,665 人（27.8%）と 3 割近くもいて、問題が難しいときには増えることから、出題範囲が非常に広い午前Ⅰ試験対策は早めに計画を立てて、確実に進める必要があります。

午前Ⅱ試験で基準点以上の方は 10,651 人（受験者の 83.8%）で、前回の 56.4%からかなり増えています。今回の試験は最近の過去問が多く、内容も比較的平易だったことが理由と思われるます。

午後試験は、以前の午後Ⅰと午後Ⅱ試験が一つに統合されてから 4 回目の実施になりますが、基準点（60 点）以上取れた人（合格者数）は 3,134 人で採点数 10,556 人の 29.7%でした。前回、

Copyright by ITEC, Inc. 2025

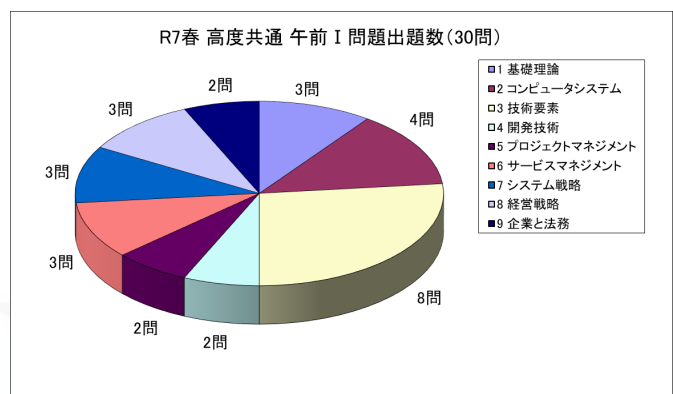
前々回は採点数の約 32%ほどが 60 点以上だったので、少し低い結果でした。

■令和 7 年度春期 情報処理安全確保支援士試験の出題内容について

〔午前Ⅰ試験（高度試験の共通知識問題）〕 30 問出題／30 問解答，50 分

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の 30 問は，従来どおり，すべて応用情報技術者試験（AP）の午前試験 80 問の中から選ばれていて，テクノロジー系 17 問（57%），マネジメント系 5 問（17%），ストラテジ系 8 問（26%）という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが，高度試験を受ける人の約 4 割が午前Ⅰ試験から受験しています。今回の午前Ⅰ試験で 60 点以上の得点で突破できた人は高度試験全体で 44.6%いましたが，これま



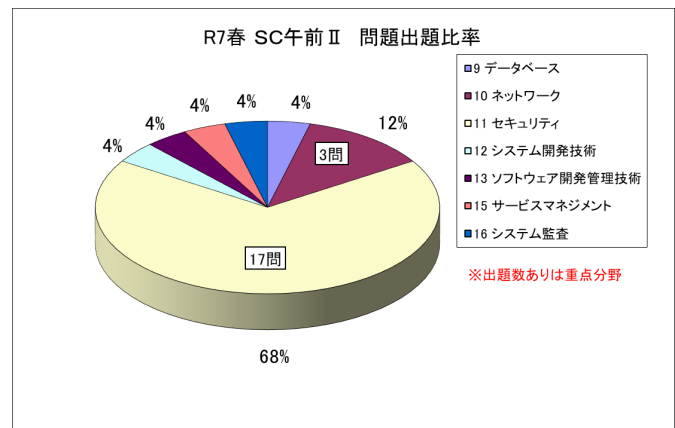
では 5～6 割の突破率なので，今回の試験が難しかったことを示しています。出題範囲が広いため問題を難しく感じる人がかなり多く，最初の午前Ⅰ試験でつまづかないように，早めに試験対策の学習を始め，確実に知識をつけていく必要があります。

- ・今回の午前Ⅰ試験は，6 割が過去問題でしたが，文章問題が減って，難しい問題も含む考察問題が増え，前回より解きづらい難しい試験だったといえます。
- ・重点分野のセキュリティの出題数は前回と同じ 4 問で，最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 8 問で前回の 3 問から大きく増え，このことも試験が難しかった理由といえます。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25 問出題／25 問解答，40 分

午前Ⅱ試験はセキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ 17 問と 3 問の合計 20 問で，前回と同じでした。

新傾向問題は 8 問（前回 7 問）ありましたが、その中の 5 問がセキュリティ分野です。過去問題は従来と同じで約 7 割ありましたが、情報処理安全確保支援士試験の過去問題の出題は 13 問ありました



（前回 14 問）。その出題年度は、R5 年秋が 5 問、R5 年春が 6 問とかなり新しい年度の問題が多く、比較的に解きやすい試験だったといえます。

〔午後試験（記述式）〕 4 問出題／2 問解答，150 分

令和 5 年秋から午後Ⅰと午後Ⅱの二つの試験が統合された午後試験は、4 問出題のうち 2 問を 150 分で解答する方式に変わりました。試験全体の時間が短くなったので受験者の負荷は軽減されましたが、今回の試験では、4 問中の 2 問が脆弱性管理をテーマとする問題で、他の問題にもすべて脆弱性管理に関する設問があったことが特徴といえます。セキュアプログラミングの知識が多少必要といえる問題は 1 問（問 3）だけで、問題選択の自由度は前回よりも高かったといえます。また、前回の試験ではほとんどの設問が字数制限なしで自由に記述する形式でしたが、今回の令和 7 年春の試験では、以前のように字数指定のある設問が多くなっています。今回合格率が XXX だった理由の一つが、この字数制限のある一般的な記述式の設問に戻ったことだともいえます。問題文の量は 1 問 7～8 ページで、前回とほぼ同じです。

新しい形式になった午後試験で合格基準点をクリアするためには、情報セキュリティ全般に関する知識を十分に身に付けた上で、問題文に記述された内容をよく読み、本文や図、表に記述された条件などを丁寧に整理して考えていきます。その上で、設問で問われていることを的確に把握して解答を作成する必要があり、試験の形式は古いですが、令和 5 年度春期試験まで出題され

ていた旧午後Ⅰと午後Ⅱ試験で問われる内容は今の試験と同じなので，演習問題としてうまく活用し，解答作成のコツをつかむようにしてください。



